

8 学校アクションプラン

2023年度 富山北部高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	家庭学習習慣の確立と授業力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路に明確な目標を持つ時期が遅い。また、生徒の進路希望が幅広く多岐にわたっている。 ・予習復習を中心とした家庭での学習が習慣化されていない生徒も多い。学習に対して取り組む時間を十分に確保できていない。 ・タブレット PC や ICT 機器を活用した効果的な授業法を研究していかなければならない。またそのノウハウを教職員間で共有していく必要がある。
達成目標	<p>① 家庭学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習実態調査で家庭学習を2時間以上行う生徒の割合が70%以上。 <p>② 授業力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間2回以上、互見授業に参加する。 ・ICTを活用した授業研究に取り組み、互見授業や研修会等を実施する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・生活実態を把握するため、記名式の調査を年間5回程度行う。また、調査結果を分析し、生徒面談、保護者会、学年集会等とおして生徒の学習意欲を喚起するとともに、教科、学年、家庭と連携をとりながら効果的な方策をたてる。 ・総合的な探究の時間やホームルームを通して自分の将来像を思い描き、必要な学力や技能、資格取得に向かって努力させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・互見授業期間を1学期中間考査後と、2学期中間考査後に設定し、授業力向上、授業改善に努める。各自2回以上、互見授業を実施または参観することとする。 ・ICT機器を活用した課題提示の内容や方法等について工夫している点を相互に学び合い、各自のスキル向上を図る。 ・生徒の進路実現に向けた検討会を行う。
評 価	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までの3回の調査で、家庭学習時間2時間以上と答えた生徒は76.8%であった。昨年度の74.5%から増加した。ただ、学習時間の確保ができていない生徒と時間が全く取れていない生徒の二極化が進んでいる。また、長期間欠席する生徒が増える傾向がみられ、単位の修得条件を満たせない生徒が増加している。日頃から健康管理を呼び掛けるなど、規則正しい生活を意識することが大事である。 <ul style="list-style-type: none"> ・互見授業では授業を参観、した回数は延べ74回で、一人当たり1.2回であった。積極的に参観して、授業担当者へのフィードバックもしっかりと行われていた。 ・デジタル教科書の使用などICT機器の活用も増えてきた。今後も各自のスキルの向上を図りたい。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・評価についておおむね同意である。 ・新型コロナウイルス感染症によるダメージなのかもしれないが、欠席者数が多いというのが気かりである。各学年どれくらいの数なのか。（教務回答：具体的な数字はないが、1年生が多い。） ・家庭学習時間が増加しているのはとてもよいことである。この数字は3学科を平均したもののか。（教務回答：3学科平均したものである。）
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に学習時間実態調査を行い、実態把握に努めるとともに、調査結果を分析し、面談、保護者会、教科部会、学年会等で方策をたて、継続的かつ効果的な指導を行い、学習意欲の喚起に努める。 ・家庭学習習慣の確立に向けて、日々の課題、週末課題など質・量をさらに検討し指導・支援していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・目標は達成しているが、日々進化するICT機器に対応し利用していくためにも今後の日々の研鑽が大切である。 ・ICT機器を有効に活用した授業や、グループ学習など授業改善に努めている教員は増えている。授業力の向上のため、今後も継続していかなければならない。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2023年度 富山北部高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着および「自覚と責任」を持たせる生徒指導の充実 ・ 健康管理能力の育成と、教育相談スキルの向上 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣、交通安全・マナーが身につけていない生徒が見られる。 ・ SNS等の適切な利用、正しい知識が不足している生徒が見られる。 ・ 規範意識の希薄な面があり、「自ら律する」指導を充実させる必要がある。 ・ 健康診断後に各種治療カードを発行しているが、受診する生徒が少ない。特に歯科については回収率が5%を下回っており、早期の治療を促す必要がある。 ・ 不登校傾向の生徒、悩みを抱え、体調不良を訴えて保健室を訪れる生徒が増えてきている。このような生徒へ対応するために、教職員の生徒理解のための教育相談スキルの向上が求められる。 	
達成目標	① 登校指導による遅刻防止、頭髪・服装指導の充実	② 治療カードの回収率向上 ③ 生徒理解のためのスキルアップ
	① 遅刻者数1日平均0.5人未満 (但し、持病や自然災害、交通遅延などによる遅刻を除く。)	② 歯の治療カードの回収率50%以上 ③ 教職員対象の研修会の実施
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着、交通安全意識・マナー、規範意識の向上を目指し全職員一丸となり、登校指導、昼の校内外巡視、頭髪服装指導を実施する。 ・ スマートフォン・インターネット安全教室や交通安全講話を実施する。 ・ あらゆる教育活動を通じて、「自ら律する」姿勢を育て、「自覚と責任」を持たせるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康診断後に治療カードを発行し、医療機関での再検査や治療等を促し、保護者会等でも受診を勧める。保健日より回収率を掲載し、自己の健康管理に対する意識を高める。 ・ 学年と連携し、生徒の実態把握に努めるとともに、研修会を開催し、専門家から生徒理解のためのスキルを学ぶ。
評 価	B	② C ③ A
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼の校内外巡視、頭髪服装指導は予定通り実施した。登校指導は11月については実施しなかった。 ・ 頭髪服装指導は計画通り実施したが、再検査になる生徒も見られた。 ・ 交通安全講話(1年生対象)、SNS安全教室(2年生対象)、薬物乱用防止教室(3年生対象)を予定通り実施できた。 ・ 遅刻の回数に関しては250回(1.7人)。体調不良を除くと96回(0.7人)。昨年度の191回から増加した。 ・ 「自ら律する」、「自覚と責任」に関しての指導はまだまだの感じはあるが、根気強く指導している。 	<ul style="list-style-type: none"> ②治療カードの回収率(1月末現在)が7.3%で、昨年度の7.2%とほぼ変わらなかった。「受診のおすすめ」の連絡は7月と12月の保護者懇談会で行い、保健日よりでも歯周病について掲載するなど、年間を通して歯の健康について啓蒙してきたが、回収率の向上には繋がらなかった。例年同様、学年が上がるにつれて回収率は低かった。根気強く受診を促していきたい。 ③11月にカウンセリング研修会を実施した。HSC(敏感で繊細な子どもたち)の理解について学ぶ機会となった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価についておおむね同意である。 ・ スマホを使用しながらの登校(自転車・徒歩)について引き続き指導してほしい。 ・ 高校生が大麻使用で逮捕されている。とても心配している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価についておおむね同意である。 ・ 歯は大切である。授業を休むのは無理でも、部活動よりも優先して受診できるように学校から指導してほしい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「自ら律する」、「自覚と責任」の指導の継続。 ・ 遅刻回数のさらなる減少。 ・ 登下校時の歩行、自転車などの交通安全意識の向上。 ・ 校則を遵守するなど、規範意識の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ②受診の必要性について、保健日より等を通して伝えるとともに、未受診者には長期休業前などの受診しやすい時期に、重ねて案内を出すなど粘り強く受診を促していく。 ③カウンセリングスキルの向上のため、今後も様々なテーマを設定し、研修会を実施していく。より多くの先生に受講してもらえるよう、実施時期を工夫したい。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2023年度 富山北部高等学校アクションプラン - 3 -																														
重点項目	進路支援																													
重点課題	進路意識の向上と進路実現に向けた進路指導																													
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 自己や社会に対する認識が不十分である。 将来の職業や生き方について考え、今は何をすべきか先を見通して実践することが難しい。 進路目標達成のため、自分で計画して、学習時間や学習量を確保することができない生徒が多い。 																													
達成目標	① 進学 進路指導に対する満足度					② 就職 進路指導に対する満足度																								
	95%以上					95%以上																								
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の適性や能力を詳細に把握するとともに、生徒自身にも自覚を持たせる。 将来設計に基づいた進路指導を行い、的確な進路情報の提供や生徒の学力分析、教員との面談を実施する。 																													
	<ul style="list-style-type: none"> 進学ガイダンス・学校見学・企業見学・進路調査・講演会等を通して、進路目標を早期に設定させる。 学力の向上に向けて、教科補習、外部模試等を各教科と連携して継続的に実施する。 担任を中心とした個別面接を通して進路指導を行うと同時に、教員研修を行い、全教員で面接指導や小論文指導を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> 就職ガイダンス・学習会を実施し、自己の興味・関心や能力・適性の理解に努め、職業意識を高める。 就職試験の準備に早期に取り組むと同時に、内定後も職業人としての意識を高めるよう指導する。 教員による会社訪問を通して、卒業生の状況や求人情報の収集に努める。 																								
評 価	B					A																								
	<ul style="list-style-type: none"> 1年生ではR4年度から引き続き「富北キャリアデザイン講座」と題し、①大学見学、②企業人にきく ③企業訪問 と行い、進路意識を高めることができた。 2年生では総合的な探究の時間の学びを充実させ、進路意識を醸成することができた・3年生では進学希望者に対し、夏季補習、放課後補習、小論・面接指導など予定通り実施できた。総合型選抜、学校推薦型選抜による合格者は昨年と同程度となった。 1月3年進学希望者に「進路指導に関するアンケート」を実施した。その結果3年間を通じた進路指導に対して、回答した179名のうち95%が「良かった」「おおむね良かった」と回答し、「あまり良くなかった」「良くなかった」は5%であった。 					<ul style="list-style-type: none"> 一般企業への就職を希望する全員が一次募集で内定を頂いた。 就職ガイダンス、学習会、面接指導は予定通り実施できた。 今年度は、個別面接指導の方法を見直し、生徒一人ひとりの能力を踏まえ、十分時間をかけ、きめ細かく指導を行った。その結果、1月に就職内定者に対して行った、「進路指導に関するアンケート」結果によると、就職内定者全員が「良かった」「おおむね良かった」と回答した。また、3年間を通じた進路指導に対しては、就職内定者のうち98%が「良かった」「おおむね良かった」と回答し、「あまり良くなかった」と回答した者は1名のみであった。 																								
	進路指導の満足調査（令和5年1月実施）（参） <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th>R4</th> <th>R3</th> <th>R2</th> <th>R1</th> <th>H30</th> <th>H29</th> <th>H28</th> <th>H27</th> <th>H26</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96%</td> <td>92%</td> <td>95%</td> <td>92%</td> <td>95%</td> <td>95%</td> <td>98%</td> <td>95%</td> <td>97%</td> <td>92%</td> </tr> </tbody> </table>											R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	96%	92%	95%	92%	95%	95%	98%	95%	97%
R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25																					
96%	92%	95%	92%	95%	95%	98%	95%	97%	92%																					
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 評価についておおむね同意である。 進学実績については素晴らしいで結果あり、日頃の熱心な進路指導に保護者の立場からも感謝している。 プレゼンテーション学習会等への取り組む姿勢も大変素晴らしい。 																													
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストに「情報」が入ってくることにより3年生の補習等の組み方を考えていかなければならない。また、それに伴い総合型・学校推薦型希望者の増加が予想され、志望理由書や小論文指導の体制を整えていくことが課題である。 就職指導については今年度大幅に変更したので、次年度はこの形を継続し、よりきめ細やかな指導ができるよう工夫していきたい。 																													

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2023年度 富山北部高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	諸活動を通じ、自ら考え、自ら行動する姿勢の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心や自分に責任があることには積極的に行動するが、周囲のためになる自発的な行動、愛校心や学校をより良くしていこうという意識には、物足りなさを感じる。 ・地域のことについて興味が薄いので、地域での活動に参加を促す。 ・課題解決に本を利用するなどの読書習慣が充分身につけていない。 ・昨年度の一人あたり貸し出し冊数3.04冊（1月末）。前年同期比で0.12ポイント増。 ・昨年度来館者数5797人（1月末）。前年同期比で1328人増。 	
達成目標	① 生徒会行事満足度	② 一人あたり貸し出し数及び来館者数
	90%以上	3.20冊 4800人
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事において、生徒会を中心に一般生徒が積極的に参加できる体制を作り、責任感を持って活動できるよう配慮する。 ・学校行事を通して愛校心を育むよう工夫する。 ・集会時の整列を自分達で行い自立を促す。 ・学校主催のボランティア活動をより自主性を持って参加させ、地域の一員であるという意識を持たせる。 ・地域の行事等に部活動の一環として協力するなど、地域の諸活動への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・学年との連携を深め、課題解決学習での図書の利用、進路に関わる図書の利用等図書部のレファレンス機能を向上させる。 ・校内の広報活動の充実や読書環境の整備を積極的に行い魅力ある図書館づくりに努める。図書委員会の活動を充実させ、イベント企画を工夫し参加しやすいものにするなど、一般生徒が図書館に足を運ぶ機会を増やす。 ・映画、TV等のメディア情報を取り入れる等生徒の興味関心を調査し応えていくことで読書への関心を高める。
評 価	A	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間学校行事を全て平常通りに実施することができた。前年度の反省点や改善点も取り入れ、企画、運営に尽力した。生徒会のアンケートでは、体育大会、球技大会、文化発表会とも約90%の生徒が「満足した」という結果となり、大変良かった。 ・いわせのクリーンアップデイが6月と11月に行われ地域の清掃行事に従事した。2回の参加率は全校生徒の約38%の268人となり、短い時間であったが地域の一員としての意識を向上させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数は1804冊（2120冊） ・一人あたり2.58冊（3.04冊） 1年747冊（1226冊）／生徒数240人(236人) 2年461冊（338冊）／生徒数233人(230人) 3年596冊（556冊）／生徒数227人(232人) *（ ）は昨年度 ・来館者数6160人（5797人） ・来館者数の目標は達成したが、一人あたりの貸出冊数は目標値には届かず。貸出数には現れていないが、図書室で本・雑誌などを読む生徒の数は増えている。 ※統計は全て1月26日現在（昨年度は27日）
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・評価についておおむね同意である。 ・地域として部活動の記事が新聞をにぎわしたことを誇りに思う。 ・生徒会活動は大切な場所なので今後も活発な活動を続けてほしい。 ・学校行事に参加する生徒達の生き生きとした表情を見られてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価についておおむね同意である。 ・スマホやタブレット等を用いた映像による学習は確かにわかりやすく効率もいいかもしれないが、やはり本の活字や文章を読むことから身につく基礎学力は大切だと感じている。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会については放送ではなく、ほぼ体育館で行われたが、時間厳守や整列マナーなど生徒会を中心に更に生徒が自主的に行うようにしていきたい。 ・1年間の行事について生徒、教職員に事後アンケートを実施した。改善点や反省点を次年度に生かしたい。 	<p>読書目的・学習目的で放課後を中心に利用する生徒が増えてきている。また、進路研究・探究活動など研究調査で利用することも定着し始めており、県立図書館との連携利用も拡大した。年々生徒にとって利用しやすく、居心地のいい図書館になってきており、今後も立ち寄りたくなる図書館の環境づくりに努めたい。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

2023年度 富山北部高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他	
重点課題	学校、保護者、社会における相互の協力と情報共有の促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育友会の活動があまり周知されていないとする指摘が若干の会員から寄せられた。 ・ 共働きやパートなどによる生計の維持の家庭が多かったり、他校のPTA役員を兼ねている家庭があったりすることから、活動を負担と感じ、会合に参加されない保護者もおられる。 ・ PTA 各行事への一般会員の参加が少ない。 ・ 生徒を通じて PTA 行事の案内をしているが、保護者に届かない場合がある。 ・ 同窓会役員体制が高齢化しており、新高校として新体制を確立する必要がある。 	
達成目標	① 行事や活動の満足度	② PTA会報『いくゆう』の閲覧
	参加者の満足度：80%以上	全会員の80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の負担感を少なくするような育友会活動にしていく必要がある。 ・ 役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。 ・ 育友会主催の行事や活動について、参加者の満足度が高くなるように心がけることで、育友会活動に参加することの意義や理解を深める。 ・ 学校のホームページや教育安全メールなどを利用して活動を積極的に発信する。 ・ 『いくゆう』は読みやすい誌面を工夫し、会員に直接手交する。 ・ 同窓会役員会での声かけなどを通じて役員体制を刷新する努力をする。 	
評 価	A	A
	<p>広報委員は、体育大会や文化活動発表会などの行事で取材活動や、PTA 広報誌『いくゆう』の編集作業などを積極的かつ主体的に行い、編集会議の参加率も80%以上と高く、活動への満足度の高さが感じられる。</p> <p>また、企画委員が実施した「育友会大学見学会」「生徒会と育友会との懇談会」では、参加者からは今後も続けるべき行事として好評であった。</p>	<p>『いくゆう』129号・7月18日発行について、1学期の保護者懇談会において、担任・学年を通じて各保護者に直接手交した。保護者会に参加された保護者は、保護者会当日・別日いずれかに、ほぼ出席されていたので、全会員の90%以上は達成されたと考える。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部活動・各学科・コースでの生徒の活躍が今後も期待される。保護者会設立など組織づくりをすることで、相互に理解し合う体制の確立が必要。 ・ 学校安全メールの効果的な活用（受賞報告、大会応援の案内など）するなど、情報発信を積極的に行う。 ・ 意思決定について、当事者にも確認するなどのルール化が必要。 	
次年度へ向けての課題	<p>育友会ではライングループに参加してもらうことで、委員間の心のつながりを強固にし、仕事の効率化・多様な情報交換を可能にしている。そのおかげで、より多くの方に、育友会活動に愛着を感じていただけるようになった。年間を通じて育友会活動が、生徒と保護者のためになるようにと、育友会では大変尽力されていた。今後も、育友会の熱い想いを受け止めて、その活動を支えられるよう、より良い連携を大切にして取り組んでいかねばならない。</p> <p>同窓会の役員体制について、多くの人に声かけを続けてきたが、まだ課題は多い。積極的な働きかけを今後も継続する必要がある。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)